卒業制作

清掃作業員の制服のデザインと アイデンティファイを意図した導入プロセス

実施主体
堀達哉、名古屋造形芸術短期大学（卒業制作）

実施期間
1991 年 10 月～1992 年 2 月

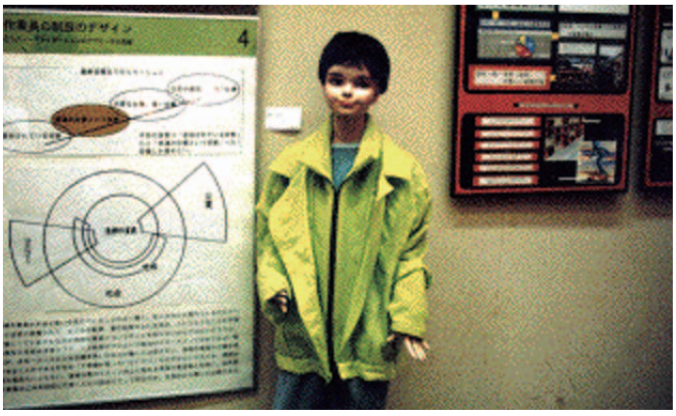
本人の役割
基礎調査、当事者インタビュー、コンセプトの確立、被服デザイン、プロセスデザイン、システムデザイン、導入プロセスに関する論文

指導
品川誠教授以下、専攻全教官

まず、低く見られがちな清掃作業員のあるべき「職業的地位」はどのようなものか、を検討した。
その結果、地域の秩序を保つ、という点で警察官や消防士のような社会的意義（公益性）があり、本来だれからも尊敬されるべき職業である、とした基本的なイメージを描いた。

そのために、取り組み意欲（士気）の一層の向上、および作業員としての専門的意識の向上の２点を満たすアイデンティティ形成のためのプログラムについて考察した。

なお、デザイン系短大の卒業研究として、それらの「社会的な意義づけ」と同時に、清掃作業に向いた実用性の高い制服の在り方を調べ、具体的な被服デザインとしても取り組み、制作した。



実物大モデルは、理想的な生地の染色が時間的に不可能だったため、発色が良いテトロンの代替生地で制作した。実際の使用現場を想定して、夏用と冬用の２種類を用意しており、夏用はメッシュ使用。もっとも、ともに作業時の体温を基準にするため、生地は薄手となっている。
論文におけるプログラム考察の過程で、オフの際の家族での着用シーンを想定したことから、子供用も用意した。（女性用は標準で用意されるもの、と想定）

子供用はあくまで「オプション」であり、この仕事に誇りを持って、家族一緒の服装が出来るように、という意図を表象するために用意した。